

歴史的環境保全を考慮した生活空間計画に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/16592

氏 名	小 林 史 彦
生 年 月 日	
本 籍	大阪府
学 位 の 種 類	博士（工学）
学 位 記 番 号	博乙第 264 号
学位授与の日付	2003 年 3 月 25 日
学位授与の要件	論文博士（学位規則第 4 条第 2 項）
学位授与の題目	歴史的環境保全を考慮した生活空間計画に関する研究
論文審査委員(主査)	川上 光彦（工学部・教授）
論文審査委員(副査)	北浦 勝（工学部・教授）高山 純一（工学部・教授） 伊藤 悟（教育学部・教授）浦山 益郎（三重大学・教授）

学 位 論 文 要 旨

Summary

This study investigates two aspects of residential environment planning considering historic preservation; landscape planning and urban development planning. The aims of the study are as follows.

1) Landscape Planning

This study deals with landscape planning considering conservation of the historic environment. The present landscape can be grasped as a composition of elements in various forms deriving from different periods of history. In this study, a method is shown which enables to position such elements of various forms into the historical context of the present landscape and a case study is carried out.

2) Urban Development Planning

This study also deals with urban development planning. Because the Building Standard Law of Japan does not take into account the traditional urban built form, various problems have occurred. In this study, the relationship between historical townscape conservation planning, improvement of residential environment, and building form regulation is examined by case studies in Kanazawa City. Another issue concerning urban development planning in historical urban districts is the implementation program of comprehensive community development policies and their influence on the local community. In this study, the actual conditions of policy implementation in Preservation Districts for Groups of Historic Buildings are investigated by a questionnaire survey, and the influence of historic preservation policies are investigated by a case study in Kanazawa City.

本研究は、歴史的環境保全を考慮した生活空間計画について、①地域景観計画、②市街地整備計画の 2 つの側面から、考究するものである。研究の目的は以下の通りである。

①歴史的環境保全を考慮した地域景観計画

地域景観は歴史的な重層性を有し、様々な残存形態の歴史的な事象により構成されている。

本研究では、多様な残存形態をもつ歴史的事象をその歴史的な形成過程に着目することにより、空間的に相互に関連付けて把握する方法を提示し、事例研究においてその適用と利用可能性の検討を行っている。この方法により、地域景観を構成する各々の歴史的成層を踏まえた地域景観計画の立案が可能となるが、このような地域景観計画の方法は、文化財を単体としてではなく、その立地環境とともに保存するという文化財保護行政における課題に対応したものである。また、地域で共有可能な景観目標像の設定のための手がかりを提供することを意図したものである。

②歴史的環境保全を考慮した市街地整備計画

歴史的市街地は歴史的に形成されてきた町並み景観や伝統的な空間構成秩序を有しており、保全すべき歴史的環境としての価値を持つが、その保全に当たっては、生活が営まれる生活空間としての各種の計画的な対応が必要である。そこで本研究は、第一に、歴史的町並み保存の実施において必要となる文化財保護施策の枠組みを超えた施策の全国的な実施実態を明らかにするとともに、歴史的町並み保存地区における居住世帯の特性と意識、及び今後必要な施策について、事例研究により明らかにすることを目的としている。第二に、住宅・市街地ストックとして歴史的町並みを捉え、歴史的に形成されてきた居住環境の保全・整備を行うに際して、現行の建築基準法の集団規定が、同法の制定以前に形成された歴史的市街地・建築物の形態に対応していないことに起因する問題が発生することが多いことに着目し、歴史的町並み保全と一定の住環境水準確保を実現する建築形態規制のあり方について、事例研究により明らかにすることを目的としている。

本研究は序説、本編、結論を合わせて、全体で 10 章から構成されている。以下に各章の概要を示す。

序説は第 1 章及び第 2 章から構成される。第 1 章では、研究の背景および既往研究を整理し、本研究の目的を明らかにしている。第 2 章では、わが国の文化財保護施策における歴史的環境保全施策の展開を概観することにより、保全すべき対象としての歴史的環境の概念の発展過程を明らかにするとともに、生活空間計画における歴史的環境保全への取り組みの経緯を、歴史的環境の概念の発展過程と関連付けながら整理し、本研究の位置づけと意義を明らかにしている。

本編は第 I 部及び第 II 部によって構成される。第 I 部は、歴史的環境保全を考慮した地域景観計画について考究するものであり、第 3 章及び第 4 章から構成される。第 3 章では、歴史的環境保全を考慮した地域景観計画手法として地域景観の「歴史・文化レイヤー分析手法」を提示し、その意義と想定される活用方法について考察している。第 4 章では、大規模な前方後円墳を核とする地域景観計画を事例として、第 3 章で示した地域景観の「歴史・文化レイヤー分析手法」を用い、大規模な文化財の立地条件の解説を出発点として、個別の文化財や町並み景観、河川や山並みなどの景観要素間の歴史的文脈を把握する方法を示している。

第 II 部は、歴史的環境保全を考慮した市街地整備計画について考究するものであり、第 5 章～第 9 章から構成される。そのうち第 5 章～第 7 章では、歴史的町並み保存を進める上で必要となる文化財保護行政の枠を超えた総合的な施策実施に関する実態と課題を明らかにしている。第 5 章では、伝統的建造物群保存対策調査実施済みの地区を有する全ての市町村の担当部局を対象として、調査票を用いた郵送調査および調査報告書概要や保存計画等の資料収集を行い、文化財保護行政の枠を超えた施策の実施実態を明らかにしている。第 6 章では、居住世帯の特性と町並み、住環境、観光に対する意識の関係を、金沢市三茶屋街における居住世帯調査によって明らかにするとともに、今後必要な施策について考察

している。第7章では、滋賀県長浜市中心市街地を対象として、大規模なクリアランスを伴う再開発を行わずに、市民、行政、企業の連携の下に、個別の店舗や通りの修復的事業を積み重ねることによって、歴史的空間構造を継承しながら商業観光都市としての空間再編を行ってきた長浜市の中心市街地のまちづくりのプロセスについて、明らかにしている。次に第8章及び第9章では、歴史的町並み保存地区における建築形態規制のあり方について、町並み景観保全と居住環境整備という視点から考究している。第8章では、伝統的建造物群保存地区制度における建築基準法の緩和規定の全国的な適用状況とその課題を、町並み景観保全と居住水準のバランス確保という観点から明らかにしている。第9章では、金沢市内の2つの地区を対象として、建築物モデルを用いた建造物の建替えシミュレーションを行い、建築基準法緩和が町並み景観と居住水準の関係に与える影響について検討している。

最後に第10章では結論として、各章から得られた知見を総括し、歴史的環境保全を考慮した生活空間計画の発展における本研究の成果と、今後の展望について論述している。

学位論文審査結果の要旨

平成14年11月26日に審査委員会を開催し、審査方針を決定するとともに、論文の内容について検討した。さらに、1月24日に口頭発表を行い、同日最終審査委員会を開催した。これらにより慎重に協議した結果、以下の通り判定した。

申請論文は、歴史的環境保全を考慮した生活空間計画について、地域景観整備計画と市街地整備計画の二つの側面から研究しているものである。前者については、多様な残存形態を持つ歴史的事象を、その形成過程を踏まえ空間的に関連づけて把握し、都市計画や地域計画へと展開する方法を事例的に明らかにしている。また、後者については、歴史的町並み地区の全国的状況や地区類型などを明らかにするとともに、金沢市における詳細な事例調査から、建築基準法などにもとづく法制度と建築形態との関連性、建築状況と居住世帯意識との関連性などについて明かにしている。さらに、それらを踏まえて、今後の歴史的町並み地区における都市計画的対応のあり方について提言している。とくに、歴史的町並みの保全と居住水準との関連を明らかにし、都市計画的対応のあり方を指摘している点については、都市計画上の意義が大きい。

以上の研究成果は、今後の歴史的地区における都市計画のあり方を検討する上で非常に有用である。以上、学術上重要な知見が得られたうえ、その成果により社会に大きく貢献する。よって、本論文は、博士（工学）の学位に値するものと判定される。